

2024（令和6）年度 教養学部学校教育学科 学校推薦型選抜（一般）講評

○課題文について

課題文は、孫 泰蔵『冒険の書 AI時代のアンラーニング』（2023年 株式会社日経BP）を一部改変して用いた。

○設問1 傍線部アで、筆者は、「ア核心を突く良い問いを立てること」と述べていますが、それはどういうことですか。課題文に即して、二〇〇字以内で説明しなさい。

【出題意図と評価のポイント】

課題文を正確に読み取り、それに基づいて文章を構成する力が備わっているかを見る設問である。「核心を突く良い問いを立てる」ことの意味を本文中の言葉から捉えて、精度の高い文章で記述したものを高く評価した。

【講評】

解答は概ね出題意図を踏まえたものであったが、「根本的な問い」の説明のみに終始したもののや、「探究のプロセスにおける問い」について触れていない解答、本文中の文言を羅列するに留まり文章構成力に欠ける解答が散見された。

○設問2 傍線部イで、筆者は「イ自分なりの探究」と述べて、傍線部ウで、「ウ答えようとするな。むしろ問え」と述べていますが、あなたはこれらについて、どう考えますか。課題文を踏まえながら、あなたの考えを、自分の体験や見聞を交えて六〇〇字以内で述べなさい。

【出題意図と評価のポイント】

筆者の主張を踏まえて、適切な事例を挙げて、論旨の通った文章で記述しているかを問う設問である。「自分なりの探究」と「答えようとするな。むしろ問え」の二つの文それぞれについて触れて、かつその二つの内容にふさわしい体験や見聞を事例としながら、論理的な文章構成で考えを述べたものを高く評価した。

【講評】

自分の体験や見聞を根拠としながら「探究」の例について述べた解答が多く見られたが、出題ポイントである「自分なりの探究」と「答えようとするな。むしろ問え」という学びの内実にまで踏み込んで、具体的に考えを述べた文章は少なかった。